

◆2022年 第1週(1月3日～9日)

今年は1月5日の水曜日が仕事始めた。ただ、講演や出張などがすぐに始まるため、その準備で年末は12月30日まで、正月明けは4日から自宅で仕事を始めている。

今年もダンパートナーズ全員で「一文字漢字」の発表から始まった。前年からは新型コロナウイルス感染症対策も兼ねて、なぜこの一文字を選んだのかという5分間スピーチはなくし、オフィスの壁に貼り出している。

この一文字漢字は、子どもたちに漢字に興味を持たせる趣旨から30年前から家族で始めだした。その5年後からダンパートナーズでも今年1年の目標設定を一文字に落とし込み、第三者に有言することで意識を高めてもらうという観点から始めたイベントである。関係先や金融機関でも採用されている。

今年の塩見の漢字は「生」。昨年99歳で逝去された瀬戸内寂聴さんが晩年によく話されたり執筆されていた「生き直し」という言葉が頭に残っていたことが大きな理由かもしれない。

年末に、過去にどんな漢字を発表していたのかを調べていると、「12年前」にも「生」を発表していたことがわかった。

12年前は還暦を迎え、元に戻る、60年で再び生まれた干支に還る本卦帰り(還り)ということから新しい人生を構築する初年度という意味から選んでいたようだ。30年間で同じ一文字は他になく、今年初めて二度目の採用となる「生」をどう活用していくかが大きなテーマになりそうである。

同時に、苦の先頭(四苦八苦の四苦とは、生・老・病・死である)にある「生」がなぜ苦の代表なのか。人生の最初から「苦」がスタートしていることは、自分の力だけでは変えられない条件である「運命」と自分の力で切り開いていくべき道である「使命」をしっかり意識せよということなのだろう。

「天がその人に重要な仕事を与える場合には、まず精神的にも肉体的にも苦しみを与えて何事も思うようにならないような試練を与える」という孟子の教えがある。思うようにならないのが人生だと割り切れることが苦からの脱却であり、結局は利他主義につながると考えられているのだろう。

今年早速「苦」と出会った。1月6日の顧客企業へ訪問の途中で手袋の左手を落としてしまったのだ。探しながら帰ったがみつからなかった。6日は、南方沖を東へ進む低気圧などの影響で、東京都心で積雪10センチを観測した日だったので買ったばかりの新しい手袋だったが、今年も『落とし物の名人』は健在である。

失せ物は手袋 可可笑す ④

